

党代表候補に野田氏を推挙されたが浮上した9日、仙谷氏は所属する前原誠司前外相支持グループの会合で若手議員に呼びかけた。

「(首相の退陣表明で)歯車は90度回った。人任せにはできない。縦横無尽に動いて頑張ろう」

首相の正式辞任表明を待たずに、野田氏擁立に向けて縦横無尽に動いていたのは、仙谷氏自身だった。

4日夜、仙谷氏は官房長官当時から接触を続け、信頼関係を築いてきた自民党の大島理事副総裁と都内のホテルで会談した。

「次の党代表は野田ならいい」。大島氏の言葉に、静かにうなずいた仙谷氏は勝負に出た。

今週に入ると、枝野幸男官房長官や興石東民民主党参院議員会

# 「仙谷院政」対抗

求め、あと一歩まで来ていたはずだった。

それが、首相の谷垣禎一総裁への唐突な入閣要請で頓挫。同じ轍を踏むわけにはいかない。

今回、仙谷氏は先手を打った。野田氏擁立で党内に「ポスト菅」への流れをつくり、早期の首相退陣を決定づける作戦だ。

それが実現すれば、自らは野田氏の後見人として党幹事長就任も見えてくる。

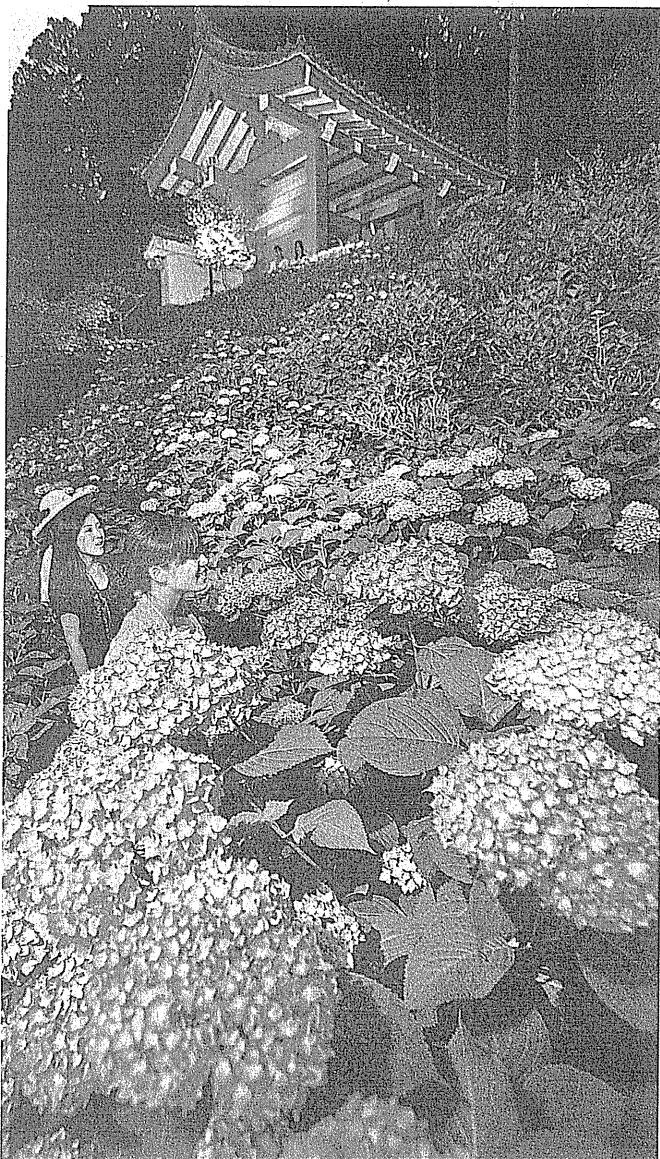
仙谷氏が読み違えているとすれば、いま民主党内に満ちているのが「反菅意識」だけだ。反菅意識でもある点だ。

西岡武夫参院議長は8日の記者会見で「政権の中枢に関わった皆さんが、次をどうするんだ」ということを言う資格はまったくない。あり得ないことだ。

谷意識」を揺り起こし、鹿野道彦農水相ら何人も対抗馬の動きを加速させた。皮肉な結果だ。(小島優)

のライトアップの試験点灯が行われ、紫や青など色とりどりの花が闇夜に浮かび上がった。写真：安元雄大撮影。庭園内には西洋アジサイや額アジサイ

月中旬から下旬で、ライトアップは11月26日の土、日曜だけ行われる。時間は午後7時～9時(受け付けは午後8時半まで)。



## 23.6.10 遠隔医療で右手を支援

東日本大震災で被災し、通院が困難になっている高齢者らに活用してもらおうと、離島が多い香川県内で先進的に運用されている遠隔医療システムが、7月にも若手県の被災地で導入される。インターネットを活用したテレビ会議方式のシステムで、医師が離れた場所の患者の様子をリアルタイムで見ながら問診できる。被災地では避難所生活などが長引き、かかりつけ医の受診が困難なケースが少なくなく、医療支援に大きな威力を発揮しそうだ。

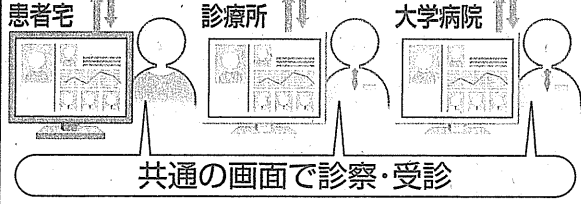
システムは「ドクターコム」と呼ばれ、香川県医師会、香川大医学部、県の3者が開発し、平成21年2月から運用している。島が多い香川県で、規模の大きい

### 離島多い香川で運用

## 被災者ネット問診

大学病院などの専門医が同時に助言することも可能だ。触診が必要なケースや薬の処方が必要な場合に、健康に不安を抱える高齢者の日常的な相談など、多くのケースで活用が期待される。若手県の沿岸部自治体の後方支援を進める同県内陸部の遠野市の本田敏秋市長が、香川の遠隔医療システムを知り、香川県側に協力を要請。香川県側は快諾し、パソコンをはじめとした機器一式を貸し出し、運用に協力する。

すでに被災地での運用テストが完了。早ければ7月半ばから、遠野市の医療機関を拠点に、若手県大船渡市や釜石市、陸前高田市などで保健師が機器を持って避難所や仮設住宅などを巡回し、本格運用を始める。本田市長は「これから夏に向け、被災者や避難所、仮設住宅に住む人たちの健康管理はますます重要になってくる」とし、システムの効力に期待する。一方、香川大医学部の山岡大祐・特命助教は「システムを活用し、息の長い支援をした」と話している。



## 7月3日 司馬遼太郎記念学術講演会

進行は産役  
【応募】分前、年齢  
〒556-前、年齢  
着、抽選  
着、抽選  
着、抽選  
着、抽選  
【主催】  
【後援】  
【協賛】



「いそ(いのち)」  
【日時】  
【会場】

### 産経抄

九州  
梅雨  
上も  
とい

だざりつく太  
うにない。じ  
沈みがちな気  
のが、色とり  
だ。きのうの  
た作品でも、  
いた▼「あ  
記憶がありま  
43歳の作者に  
が呼び戻すの  
い記憶ではな  
代の「あの日